

平成20年度香小研国語部会夏季研修会報告

1 はじめに

平成20年7月25日（金）、総合会館アイレックスにおいて、約400名の会員の参加のもと、香小研国語部会夏季研修会が開催された。本年度は、今年3月に告示された新学習指導要領のキーワードである「習得・活用」に視点を当てた研究に着手した。

「習得・活用」においては、児童の言語活動の充実が求められている。それを受け、最初の研修として、それぞれの教科（国・社・算・理）研究において県内の中心的な役割を担っている先生方を招き、「全教科で取り組む言語力の育成」のテーマでパネルディスカッションが行われた。

続く各都市からの提案では、習得すべき知識を明確にして、その活用を図る実践や、国語の授業で学んだことの日常化を図る実践など、新学習指導要領に則った先進的な取り組みが発表された。

そして、これらの提案に対し、香川県教育委員会事務局義務教育課課長補佐兼主任指導主事・山下昌宏先生、同主任指導主事・大出茂晴先生から、新しい時代を見据えた研究の方向性についてご示唆いただいた。

また、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官（平成20年7月現在）・井上一郎先生には「言葉の力を高める国語科学習」と題して貴重なご講演を頂き、大変有意義な会となった。

2 本年度研究テーマ・研究内容について

改訂指導要領の趣旨に沿った国語科学習の在り方
知識・技能を習得し、活用する学習の構築

目標レベル	到達目標の明確化
指導事項と言語活動を関連づけた目標の設定 「知識・技能の習得」「活用」の視点からの到達目標の設定	
教材・単元レベル	到達目標を具現する教材開発・単元開発
「知識・技能の習得」「活用」のバランスの取れた教材化 単元化における「知識・技能の習得」と「活用」の構成・配列 「言語文化と国語の特質に関する事項」に関する教材開発	
学習指導レベル	きめ細かな支援の在り方
1単位時間における「知識・技能の習得」「活用」の在り方 双方向性のある、建設的な合意形成を目指したコミュニケーション 子どもの思考・認識を深める視覚化・操作化資料、板書、ノート指導 学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動（メタ言語活動）の場	
評価レベル	評価項目、評価規準、評価方法の改善
一人一人を適切に評価し、支援へと生かしていく評価項目、規準及び方法	